

平成30年度
自己評価報告書

評価期間

自：平成30年4月1日

至：平成31年3月31日

平成31年4月10日

専門学校日本デザイナー芸術学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成「専修学校における学校評価ガイドライン」及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成「第三者評価システムの概要Ver4.0」に準拠し実施した。

自己評価委員会

委員長：成 光雄（校長）

委 員：山内 雄司（教務長）

委 員：下雅意 善規（教務）

委 員：石川 優子（教務）

委 員：小原 桃子（教務）

事務局：大本 周平（事務長）

事務局：白土 純（学務長）

事務局：中村 亜弓（総務）

事務局：宮田 梨絵（総務）

目 次

学校の現況	P 3
1. 学校の教育目標	P 4
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 ...	P 4
3. 点検項目の評価結果	P 4～9
(1) 教育理念	P 4
(2) 学校運営	P 5
(3) 教育活動	P 5・6
(4) 教育成果	P 6
(5) 学生支援	P 7
(6) 施設整備	P 7
(7) 学生募集	P 8
(8) 財務	P 8
(9) 法令順守	P 8・9
(10) 社会貢献	P 9
(11) 国際交流	P 9
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 10
(1) 教育目標.....	P 10
(2) 財務評価.....	P 10
(3) 一般的評価.....	P 10

学校の現況

(1) 学校名

学校法人敬道学園 専門学校日本デザイナー芸術学院

(2) 所在地

愛知県名古屋市中村区黄金通1-16

(3) 沿革

1967：日本デザイナー学院名古屋校創立 学院長 山名文夫

1979：専門学校日本デザイナー学院認可 校長 狭間寿郎就任

1981：校長 横田真利就任

1984：校長 岡本滋夫就任

1987：学院創立20周年記念「高校生デザイン・写真コンペティション」

(現高校生グランプリ) 開催

1990：海外研修旅行（パリ・ニューヨーク）開始

1991：学校法人名古屋呉学園設立 中村区役所校舎移転 校長 中井幸一就任

1994：専門士推薦

1997：創立30周年記念 第1回OB展開催（国際デザインセンター 4階ギャラリー）

1998：専門学校日本デザイナー芸術学院に校名変更

2000：OB2000「DIGITAL WORLD」開催

2002：創立35周年記念記念行事開催（国際デザインセンター 3階ホール・4階ギャラリー）

中国四川大学芸術学部姉妹校提

2003：世界グラフィックデザイン会議 ICOGRADA出展

2007：創立40周年記念「OB40展」開催 校長 田邊雅一就任

2011：校長 本山星求就任

姉妹校・専門学校日本マンガ芸術学院創立 校長 成 光雄就任

2014：専門学校日本デザイナー芸術学院校長 成 光雄就任（両校兼務）

2015：学校法人敬道学園に学園名称変更

2018：保育士養成スクールこども芸術学院創立

(豊岡短期大学通信教育部こども学科の学習サポート校)

1. 学校の教育目的

教育理念

本学は、日本の創作文化やデザインに誇りを持つと共に、常に先端を視野に入れた実社会で通用する真の創造力を健全に育成することを目的とする。

また、優れた専門性を持ち、時代のニーズを的確に反映できる実力と人間性を兼ね備えた人材の育成をおこなう。

本学で学ぶ学生たちに活力ある教育、学習環境を提供し、表現・創作活動の支援体制作りをおこなう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) デザイン業界や社会のニーズを意識したコース編成やカリキュラム作り。
- 2) 社会参画意識の啓蒙とIT時代にふさわしいコミュニケーション、自立心、人格形成の支援。

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
1-1	教育理念・教育目標は示されているか	4	3	2	1
1-2	学校の特色は示されているか	4	3	2	1
1-3	学校の将来構想は示されているか	4	3	2	1
1-4	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	4	3	2	1
1-5	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①課題

デザイン業界や社会の多様化に伴い、ニーズに沿ったコース設定や授業を開発すること。

②今後の改善方策

関係業界に対応したコース編成や教育手段を試行錯誤していく。

③特記事項

在学生に対する心得、社会参画意識は入学時と進級時のオリエンテーションで周知。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
2-1	運営方針は定められているか	4	3	2	1
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	4	3	2	1
2-4	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
2-5	意思決定システムは確立されているか	4	3	2	1
2-6	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-8	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

学校運営や目標についてより周知徹底する。

②今後の改善方策

学校運営についての情報公開を推進していく。

③特記事項

「働き方改革」を意識した労働環境構築にも注力する。

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
3-1	教育理念等に沿った教育課程も編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
3-2	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	4	3	2	1
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているかに反映されているか	4	3	2	1
3-5	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	4	3	2	1
3-6	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-7	成績評価の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-9	授業評価は実施されているか	4	3	2	1
3-10	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	4	3	2	1
3-11	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4	3	2	1
3-12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題

社会での実践を意識したキャリア教育の重要性を学生に浸透させていく。

②今後の改善方策

- ・卒業年度に実施している就職対策を前倒しで実施していく。
- ・「キャリアデザイン」授業の内容や質を工夫し、職業意識を高める。

③特記事項

講師の高齢化対策、多様性も含めた人材の確保や育成を進める。

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
4-1	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	3	2	1
4-2	資格取得の向上が図られているか	4	3	2	1
4-3	退学者を減らすための施策は図られているか	4	3	2	1
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

- ・卒業や就職を意識してから実際に行動するまでが遅い学生に対する対策。
- ・退学者や離脱者、その可能性のある学生に対するケア。

②今後の改善方策

- ・職業を意識した授業や講義、企業説明会や社会見学機会などを増やす。
- ・学生状況の早期把握と複数職員対応や面談を基本とする。

③特記事項

卒業生、在校生の活動や成果を多面的に公開していく。

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
5-1	就職に関する支援体制は整っているか	4	3	2	1
5-2	学生相談などの支援体制はどうか	4	3	2	1
5-3	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	4	3	2	1
5-4	学生の健康管理はどうか	4	3	2	1
5-5	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-6	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-7	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

多様な学生に対する適切な対応策の実施

②今後の改善方策

- ・高校・高等専修学校などとの連携を強化し、入学前から職業教育を支援する。
- ・学生への経済的支援のための施策、奨学金などを充実させていく。

③特記事項

映像学科に対する「職業実践専門課程」認定を目指す

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
6-1	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	4	3	2	1
6-2	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-3	防災体制は整っているか	4	3	2	1

①課題

デジタル機器の入れ替えやソフトウェアの多様化、バージョンアップに伴う課題。

②今後の改善方策

- ・PC機材の入れ替えなどを計画予定。時代に合わせた教室の改装も実施予定。

③特記事項

今年度はLED照明、各階トイレの改善整備を行った。防災備品、備蓄品を刷新した。

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
7-1	学生募集活動は適正か	4	3	2	1
7-2	学生募集に教育成果は反映されているか	4	3	2	1
7-3	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4	3	2	1
7-4	納付金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題

国の奨学金や高等教育無償化制度に対する適切な対応。

②今後の改善方策

新コースの開発による新たな入学者層の開拓。

③特記事項

任意の入学者特典（AO特典）として夜間コースを無償開放した。

(8) 財務に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
8-1	中長期的に財務基盤はどうか	4	3	2	1
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4	3	2	1
8-3	会計監査は適正に行われているか	4	3	2	1
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

適正に行われていると判断している。

②今後の改善方策

安定した財務基盤を維持継続していく。

③特記事項

特記事項なし

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
9-2	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-3	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4	3	2	1
9-4	自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1

①課題

第三者評価による点検および情報公開。

②今後の改善方策

自己評価委員会、学校関係者評価委員会の検討事項を活かす。

③特記事項

自己評価、学校評価を公開。

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
10-1	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4	3	2	1
10-2	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	3	2	1
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

- ・産学協同からの社会活動や地域支援への発展。
- ・多忙な学生の学習機会との両立が課題。

②今後の改善方策

専門分野における社会活動や地域支援を考えていく。

③特記事項

特になし

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切… 4 ほぼ適切… 3 やや不適切… 2 不適切… 1			
11-1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
11-2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
11-3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

①課題

現状留学生は極少数。多くの留学生に対応するのは難しい状況。

②今後の改善方策

留学生の受け入れの可能性や対応力を研究していく。

③特記事項

必要に応じて留学生に対する短期授業の受け入れなども検討する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育目標

産学協同や時代のニーズに沿ったカリキュラム、教育メニューを構想している。

変化と進化が必要なもの、普遍的な基礎教育をバランスよく配置する必要がある。

卒業生とのネットワーク、支援、再就職紹介も重視して卒業生動向や実績の把握に努める。

変化の激しい分野だけに保護者を含むステークホルダーへの学院理解や業界理解を高める必要がある。

(2) 財務評価

平成30年度の学生募集結果は前年より増加。新しいコース編成を見据えた投資計画も含めて学校運営上支障なく運営できた。

(3) 一般的評価

中部・中京地区は、産業分野で多くの世界企業が拠点を構え、それに伴って大きな商業圏、経済圏が存在し、それに関わる多数の商業デザイナーやクリエイターが活躍している地域である。

本校は名古屋で50年以上の歴史を持ち、この地域においてデザイナーやクリエイターを目指す多くの若者や人々を受け入れ、デザイン、写真、イラストレーション、マンガ、声優タレントなどの分野で多くのプロを輩出してきた。

現在では、専門学校日本デザイナー芸術学院と専門学校日本マンガ芸術学院として専門分野をより細分化しながらも、クリエイティブを共有する2つの学院が連携・協調し、業界を広く見渡しつつ時代に合わせた質の高いカリキュラムを展開している。